

2018年版レポート分析からみる

2019年のESGコミュニケーションの傾向

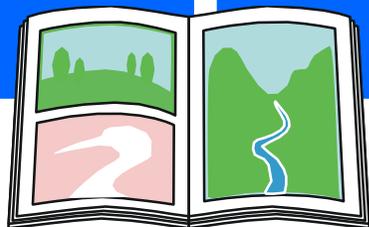
トッパンアイデアセンター
コーポレート・コミュニケーション企画チーム

■ 調査対象

10月までに発行した企業のうち、
各種ランキング上位企業を中心とした統合報告書および
CSRレポート、サステナビリティレポート等を対象に
約60社を調査

統合報告書
(冊子・PDF)

・CSRレポート
・サステナビリティ
レポート
(冊子・PDF)



IRサイト CSRサイト

PDF詳細版
レポート



その他
ブック
小冊子など



- ☑ **参考ガイドライン**
- ☑ **長期志向**
- ☑ **ビジネスモデル**
- ☑ **マテリアリティ**
- ☑ **エンゲージメント**
- ☑ **ガバナンス**
- ☑ **コミュニケーション（対話）の多様化**

これらのテーマを、事例をもとにケーススタディとしてご紹介します

☑ 参考ガイドライン

＞ 価値協創ガイダンスの活用で開示情報が深化。GRIスタンダードは中核準拠が増加。

☑ 長期志向

＞ 20～30年先を見据えた長期ビジョンを、SDGsやESGの視点を取り入れて訴求。

☑ ビジネスモデル

＞ 外部環境分析やリスクと機会の洗い出し、強みを強調した訴求が増加。

☑ マテリアリティ

＞ 経営との連動性が焦点。コネクティビティを意識した表現に工夫が見られる。

☑ エンゲージメント

＞ 実施から対応まで開示内容が充実。事業活動に活かす手段としての掲載も。

☑ ガバナンス

＞ 体制の改善状況や実効性評価などが充実。レポート別に情報をすみ分ける例も。

☑ コミュニケーション（対話）の多様化

＞ ツールの多様化だけでなく、対話の姿勢を重視しESG説明会の開催が増加。